

青森県風間浦村長ほか11人が同志社を訪問

法人事務室

6月24日(木)、青森県風間浦村の横浜力村長をはじめ、村議会議員、役員職員の12人が同志社を訪問された。風間浦村と同志社との関係は、1864年、創立者新島襄が函館を目指して海中に、北風と激しい潮流を避けるために風間浦村に寄港したことに端を発す。新島が航海中に記した「函館紀行」にもあるとおり、日本の将来を憂い、大志を抱きつつも大きな不安をも感じながら航海していた新島にとって、名湯下風呂温泉での滞在は、ひとときの安堵を与え、それによつて、新島の奇跡の生涯が幕を開け、同志社創立への歩みが始まったとも言えるのである。

そのような縁により、風間浦村は「同志社創立者新島襄先生寄港の地碑」を1992年に海峡いさりび公園内に建立、毎年、総長をはじめ法人関係者が出席のうえ碑前祭が執り行われるとともに、風間浦中学校と同志社中学校の

交流、ならびに同志社大学の留学生と同村の小学生・中学生との交流などの事業が継続されてきている。

訪問当日は、京都に到着後、まず大学京田辺キャンパスを見学、その後、今出川キャンパスに移動し、ハリス理化学館において山本修法人事務部長が学校法人同志社の近況を報告、中学校・高等学校の木村良己校長および竹山幸男副校長が中高統合の経緯、ならびに統合後の教育方針と展開について説明した。引き続き重要文化財を中心に今出川キャンパスを見学の後に岩倉キャンパスに移動し、中学校・高等学校を視察され、訪問日程を終えた。今回の訪問は、創立者新島襄によつて結ばれた風間浦村と同志社の交流を、今後いっそう充実・発展させていくことを双方が改めて確認する絶好の機会となった。



2010年度「同志社キャンパスフェスタ」開催

http://www.doshisha.ac.jp/alumni/info/c_festa.html

大学企画部広報室 校友・父母課

2010年度も「同志社大学の今」をお伝えすべく、昨年引き続き下記の日程で「同志社キャンパスフェスタ」を開催します。校友、在学生父母、高校生を対象に、大学の近況報告、講演会、キャリア支援や入試に関する説明など多彩なプログラムを用意します。学長はじめ各学部の教職員、学生アドバイザーから同志社大学のことについて直接に聞くことができます。参加した高校生からは「印刷物やホームページからでは得られない情報源として、身近に感じることができると」の声を得ています。今年も、全国の会場で多くの皆様との出会いを楽しみにしています。

開催日	開催地	会場	講演講師
10月 3日 (日)	東京	六本木アカデミーヒルズ49 地下鉄日比谷線「六本木」駅 徒歩3分	加藤千洋教授 大学グローバル・スタディーズ 研究科
10月 9日 (土)	金沢	金沢エクセルホテル東急 路線バス「香林坊」駅 徒歩1分	真山 仁氏 作家 (87年大学法学部卒)
10月23日 (土)	松山	国際ホテル松山 市電「大街道」駅 徒歩5分	真山 仁氏 作家 (87年大学法学部卒)
11月 3日 (水・祝)	福岡	アクロス福岡 地下鉄「天神」駅 徒歩3分	佐藤 優氏 作家・元外務省主任分析官 (85年大学神学研究科修了)
11月14日 (日)	松江	松江テルサ JR「松江」駅 徒歩1分	佐藤 優氏 作家・元外務省主任分析官 (85年大学神学研究科修了)
11月20日 (土)	盛岡	ホテルニューカーリーナ JR「盛岡」駅 徒歩8分	真山 仁氏 作家 (87年大学法学部卒)
11月21日 (日)	福島	福島ビューホテル JR「福島」駅 徒歩1分	加藤千洋教授 大学グローバル・スタディーズ 研究科

〈主なプログラム〉

開 会	13:30	開会挨拶、大学の近況報告(八田英二学長)
講演会	14:00	講師は表の通り
〈A会場〉	15:10~15:50	同志社大学のキャリア支援について (大学キャリアセンター)
	15:50~16:10	地元企業などからの説明
〈B会場〉	14:20~14:50	車座による学生アドバイザーと高校生との相談会
	15:00~15:40	入試説明(大学入学センター)
	15:40~15:50	グローバル・コミュニケーション学部(2011年開設予定)紹介
	15:50~16:30	模擬講義「同志社の英語」
〈C会場〉	14:00~16:20	個別学部による説明・相談&入試相談コーナー (各学部・学生アドバイザー)
〈D会場〉		資料展示コーナー
交流交歓会	16:30~18:00	【会費制】

大学ラグビー部「100年史」刊行

―創造と挑戦の歴史―

大学ラグビー部副部長
大学企画部広報室長
桂 良彦

1911（明治44）年11月25日、第三高等学校との試合が同校グラウンドで行われた年を創部年と定めてから、大学ラグビー部は本年で創部100年を迎えました。

2006年のDRCハウス（選手寮）設置に始まる記念事業も、今年5月4日の創部100周年記念式典（巻頭グラビア参照）、翌5日の慶應義塾大学、京都大学両定期戦ほかの記念試合を経て、この「100年史刊行」が最後の取り組みとなります。

本書は、周年記念誌としては、創部25年、70年に続く発刊となりますが、「部員達が長年に亙りこつこつと積み上げてきた智慧（技術、戦法、部の運営など）、それも実体験に裏付けされた智慧に触れ、これ等を記録として残す大切さを再認識」（編集後記抜粋）する一冊となっています。

年度別記述（第1章）以外にも、卒業生諸氏（故人含む）の時々回想・提言・講演録など、数多くの想いが集積された、単なる記録集から大きくはみ出す出来栄となっています。また、当部関係者である本学教員による「創部200年に向けて人材育成を」、「瓦解するアマチュアリズムと学校スポーツの今後」、およびチームドクター連名による「ラグビー選手の負傷予防と健康管理」と題した、興味深い特別寄稿なども掲載されています。

本書を通して、山あり谷ありの100年は、同時に創造と挑戦の歴史でもあることが読み取れます。これは部関係者一同が次の100年に向けて心に刻むべき精神です。皆様の一層の叱咤激励とご支援をお願いして、ご紹介いたします。

本書は関係者への配布を前提に制作いたしましたので、残部を次の方法により実費にて入手いただけます。

入手方法：

部ホームページ

2010年10月発行（予定）

A4版約820頁

同志社大学ラグビー部

検索

